



横浜市立永田台小学校

学校だより

7月号 令和8年6月30日 NO.605



豊かな言葉の使い手に

校長 西 かおり

梅雨らしさをあまり感じることなく6月が過ぎ去ろうとしています。6月は、大人も子どもも疲れを感じやすい時期なのですが、永田台小学校の子どもたちは元気よく過ごしています。朝、昇降口にいると、「校長先生、見て見て。」と、いろいろな生き物を見せてくれたり嬉しそうに「このプールバックいいでしょ。」と、笑顔で話してくれたりします。ここ数日は、クワガタやカナブンなど夏になると元気に活動する生き物を見せてくれました。さて、保護者の皆様にも経験があるかもしれません。子どもがこのように話しかけてくれたときに、どのように答えますか。わたしは、できるだけ具体的な言葉や子どもたちが使っているようになってほしい言葉で答えたいと思っています。けれど、振り返ると「すごい」「すばらしい」「かっこいい」「すてき」など、同じような言葉を使っていることに気づかされます。

例えば、子どもが絵を描いて見せてくれたとします。教師としては、子どもの頑張りを認めて子どもが笑顔になる言葉をかけたいものです。「すごいね。」という一言でも、うれしいかもしれませんが、どういところがよかったのか具体的に伝えるようにします。「画用紙いっぱい大きく描いてあって迫力があるね。」「たくさんの色を使っているから華やかだね。」「筆の使い方を工夫しているからかっこいい世界になったね。」そうすると、次に絵を描くときには、もっとたくさんの色を使ってみようとか描き方を工夫してみようという思いにつながります。

子どもたちが使う言葉は、日常生活に触れているものすべてから吸収し学んでいます。学校では、教師が使っている言葉や学習の中で用いる言葉を吸収しているのだと思います。家庭の中では、家族が使っている言葉や会話の中で用いる言葉を吸収していると思います。学校でも家庭でも大人が子どもにとってよい言語環境となりうるように言葉を発したいものです。

学校でおこる子ども同士のトラブルの多くが、きちんと自分の気持ちを言葉で伝えていなかったり相手が嫌な気持ちになる言葉を言ってしまったりするといった「言葉」がもとになっているように思います。相手のことを思いやる気持ちを持ち、どんな言葉を発するかによってコミュニケーションがうまくいったりトラブルになりにくくなったりするのではないかと考えています。学校でも豊かな思いやりのある言葉を使う子どもたちを育てていきたいと思っています。ぜひ、ご家庭でも思いやりのある言葉について、ときどき話題にしてみてください。

日頃より本校の教育活動にご理解ご協力いただき誠にありがとうございます。7月18日(土)から夏休みになりますが、ここまで子どもたちが安全に登校できているのは、保護者の皆様と地域の皆様のおかげです。夏休み中にも安全に過ごせるように学校で指導しますが、各家庭でも過ごし方について話したり地域の皆様にも見守ったりしていただければ幸いです。よろしくお願いいたします。